

「大人」が楽しむことができる 真のデイケアサービスを



「デイサービスやぐらもん」

「私たちは高齢者ではなく、人生の先輩なの(笑)」

昭和四〇年前半ごろまで博多・祇園エリアは矢倉門町と呼ばれていたという。その地に構える「デイサービスやぐらもん」は、博多の街で地域に愛される集いの場になることを願い、その名を残した。その願い通り、ここはいつも絶え間ない笑い声で溢れている。「ここに来るのが何よ

りも楽しみな。みんなと一日笑顔でお話して思うんですよ。同じ年代ばかりなので、話も合うし気がねもしないしね」そう笑うのは、御年八十六歳という白鳥友江さん。大のホークスファンで、「ドームの年間シートも持っているよ」とあどけなく微笑む姿は、失礼ながらとても八十代とは思えない。若々しく人生を謳歌する白鳥さんが

こちらの施設を選んだのには理由があった。「ここは“高齢者”ではなく“先輩”という視線で私たちと接してくれるんですよ。だからデイサービスのアクティビティも本格的。華道や書道の師範を持った先生が教えてくれるので、若い頃から嗜んでいる私も上達を目標そうという気持ちになります。子供だましではなく、“大人のための”施設なのよね」



週3回ここに来るのが何よりも楽しみという白鳥友江さん(86)。「キャナルシティなどをお散歩するのも大好き」と語る、都会派おばあちゃんだ



「ドームに行くとマックスに『おばあちゃん、また来てくれたネ!』と抱きつかれるんですよ」と嬉しそうにサイン入りユニフォームを見せてくれた



「家族には安心を、本人には思い出を」

「書道や華道を指導するのは私ですが、その他のアクティビティについてもそれぞれカントリードダンスの世界チャンピオンや博多仁和加振興会理事長など、その道のプロの方に来ていただいています。利用者の方は皆さん、当然私たちより人生経験が豊富なわけですから、人生の先輩に対する敬意を忘れないよう、いつも心に留めています」

と話すのは施設長の仁泉ひとみさん。年長者を敬う心が自然に宿っているからこそ、管理者と利用者というお互いの間に信頼関係が築けるのだろう。「もう一つ心がけているのは、利用者のご家族にいかにか安心していただくかということ。書道や華道をアクティビティに選んでいることについて、“作品を家に持って帰っても大きな”という利点がある大きなことしたんだね、

という家族間のお話にもなるし、ブーケをお嫁さんやお孫さんにプレゼントすることもできる。その後のコミュニケーションにつながるんですよ。ここに来た時間

に渡しています。何をしているのか気になるし、不安になるご家族もいらつしやるでしょうから、『お母さんがこんな風に笑うの、初めて見ました』なんて写真を見ながら言われると、本当に嬉しくなります」

● デイサービスやぐらもんを運営する「仁コーポレーション」代表取締役の仁泉ひとみさん。専正池坊ロイヤルフラワーアレンジメントインストラクター、日本習字教育財団教授等の資格を持つ

「その微笑む仁泉さんの眼差しは温かい。「自分の親だったらどうか?と想像するんです」というその姿勢、それが次代の高齢者サービスに不可欠の視点とセンスではないだろうか。



■ デイサービスやぐらもん 福岡市博多区祇園町2-18 ☎092-262-9333



■ デイサービスやぐらもん 宮崎センター 福岡市東区箱崎2-12-50・2F ☎092-651-8911